

# 東日本大震災復興祈願万灯会

## 境内を灯す千五百の献灯

### 大本山光明寺

東日本大震災復興祈願万灯会(主催、鎌倉十三仏詣実行委員会)が三月十日、浄土宗大本山光明寺(柴田哲彦法主、神奈川県鎌倉市)で柴田法主導師のもと厳修された。鎌倉市内の浄土宗、真言宗、臨済宗、日蓮宗の僧侶六十二人が参列した。檀信徒、一般市民五百人が犠牲者に手を合わせ被災地復興の一日も早からんことを祈願した。



境内を灯す1500個の万灯。後方は山門=3月10日、鎌倉・大本山光明寺

「災害で犠牲になった方が極楽浄土へ行けますように」「被災地復興!」「一日も早い復興を。そして世界で活躍できるように」「頑張れ東北!強くあれ東北!」「世界平和」「回向法界衆生」「除災招福」「人智を尽くして未来が拓けますように」との思いが綴られた万灯千五百灯が灯る大本山光明寺境内参道。

楽師を先頭に導師、式衆、吉水講、僧侶らのお練りは午後五時半、九品寺を出発。山門をくぐり足元を照らす万灯に迎えられる、本堂に入堂。鐘が撞かれ法要開始を告げる。

導師は所定の位置に着座。導師に合わせ参詣者も本尊に拝礼。四奉請をもつて諸仏、諸菩薩を道場に迎える。次に懺悔偈十念が唱えられた。引き続き導師が本尊阿弥陀如来の加護を願う表白が奉

次に東日本大震災物故者回願がなされ合わせ、一切精霊偈が唱えられた。十念が念じられ観音経が読誦された。この間一般焼香があり各自焼香した。次に万灯に綴られた参詣者の諸々の願いを本尊に届ける御祈願が唱えられた。

十念の後、吉水講による光明撰取和讃「人のこの世は長くして変わらぬ春を思いしに無常の風は

へだてなくはかなき夢となりけり…」が詠唱された。その後、雲版、太鼓に合わせ六字誦念仏が唱和された。

その間、代表焼香があり牧田知江子実行委員長、久保田陽彦梅かまくら特別参拝協賛者代表、松尾弘美震災避難者代表らが本尊前に進み焼香した。最後は導師から十念が授与された。参詣者は導師と共に十念を唱え

た。柴田法主は「大変な災害の時から早や五年が過ぎた。悲しみの想いが押し寄せてくる。今日は宗派を超え多くの僧侶が参集して下さり本法要で犠牲者となった方々の慰霊をした。五年経ったとはいえ被災地の復興はまだ途上である。

大地震発生時、私は横浜にいて体験した。太平洋戦争で横浜空襲があった。その際、私は小さな子供であったが、逃げ回った恐ろしい経験をもっている。その時を彷彿とさせる大変な災害であった。

大般涅槃経に諸行無常の教えがある。精進を怠るな、と教えている。被災者の心身共の復興を念しながら人それぞれの立場で精進を誓おう」と垂示、法要を終えた。